

令和6年3月18日

ヤマザキ動物看護大学 生成系 AI の取り扱い方針について

ヤマザキ動物看護大学

学部長 内田 明彦

研究科長 梅村 隆志

ヤマザキ動物看護大学動物看護学部における生成系 AI ツールの教育現場における利用について、下記のように方針を定める。適切な活用を心掛けるよう、留意すること。

なお、AI ツールは常に進化しており、利用に際して注意事項も変化していく可能性があるため、今後適宜アップデートを行う予定である。

(1) 大学の対応

生成系 AI ツールの利用を一律に禁止することはせず、その活用の可能性を積極的に探るとともに、活用上の実践的な注意を発信していく。

(2) 授業での利用の可否

授業の特性に応じて生成系 AI ツール利用の判断は異なるため、各授業における生成系 AI ツール利用の可否および利用する際の条件設定は、担当教員の判断に委ねる。

大学での学びにおいては、知識生成の過程や洗練化の過程を通して思考能力を高めることが重要である。生成系 AI ツールで生成された文章をそのまま授業課題の回答とすれば、この貴重な思考過程の訓練の機会を逸することになり、長期的には当人の能力向上が損なわれることが、利用に一定の条件を設定する根拠である。

(3) レポートや論文における利用の可否

レポートや論文では、根拠となった出典を明記した上で、自分なりの考えを記載することが求められる。授業課題を提出する際に、生成系 AI ツールが生成した文章等をそのまま自分の文章として用いることは認めない。

(4) 生成結果の誤りやバイアスが存在する可能性

生成系 AI ツールによって生成された文章は、間違いが含まれていたり、利用者の意図には整合しない内容になっていることがある。また、AI の回答には学習内容や設定アルゴリズムに基づくバイアスが存在することもある。生成結果を鵜呑みにするのではなく、自ら必ず吟味したうえ、適宜修正するなどした上で活用する必要がある点に注意すること。

(5) 法的リスク

AI ツールの生成物には著作権や意匠権上の問題が存在する可能性が示唆されている。よって、生成結果をそのまま利用することが将来、法的なリスクを伴う可能性がある点に十分に注意すること。

(6) 情報セキュリティ

AI ツールに入力した情報は、AI の学習に用いられる可能性があるため、機密情報、個人情報、未発表の研究成果などを入力することを禁止する。

以上